

# 2018 年度後期 ロシア留学報告書

派遣先：ウラジオストク国立経済サービス大学

派遣期間：8月28日～12月27日

新潟国際情報大学 国際文化学科

学生番号：21017043

熊谷壮介

## 目次

- 1 研修先及び実習期間
- 2 研修先概要
- 3 留学目的
- 4 留学内容およびスケジュールと履修コースの詳細
- 5 留学に対する自己評価、得られたもの
- 6 反省・課題

謝辞

付録：研修日誌

## 1 研修先及び実習期間

研修先：ウラジオストク国立経済サービス大学

研修期間：平成 30 年 8 月 28 日～平成 30 年 12 月 27 日

## 2 派遣先概要

・ウラジオストク国立経済サービス大学（ВГУЭС）はウラジオストク市内の中心部に位置しており 1967 年に開学した。8 つの学部と 1 万 5 千人の学生数を誇る。学内には複合スポーツ施設や学生用カフェ、食堂がある。また、学内寮では 1200 名収容でロシア国内出身者や外国人留学生も多く居住している。また ВГУЭС はウラジオストク内における最高水準の教育機関でありロシア連邦教育省からいくつもの賞を受けている。

## 3 留学目的

・今回の留学では大きく 2 つの目的があった。1 つの最大の目的は何とんでも語学力の向上だろう。語学を学ぶ上で欠かせない読み、書き、聞き取り、話す。日本での授業内だけの学習では読み、書きは十分に学習できる環境が整っているが聞き取りや話すことに関してはやはりその地へ赴くことが最も力を伸ばすことに適していると考えた。ロシアでの生活となるとすべてがロシア語であるため何をするにも語学の学習につながるだろうと考えた。また CD での聞き取りは日本にいる間も可能であったが、実際のロシア人の話す言葉とはスピードやイントネーションの違いもあるだろうと考えていた。

そして、留学といったら異文化体験は欠かせない目的であろう。人間の思考や価値観は常に経験に基づいておりそれらを大きく、深いものにするには多くの人やモノにふれることが大切であると考えていた。その考えに基づき自分とは異なる考え方や文化、それらにふれることで自分の成長を促すこともまた最大の目的であった。また異文化に触れることは単純に好奇心が湧くことでもあった。

## 4 留学内容およびスケジュールと履修コースの詳細

8.28 日本出発、およそ1時間半のフライトを経て19時ごろ到着

8.31 クラス分けテスト

9.2 ウラジオストク中心部を探索

9.3 授業開始

9.23 ロシア人学生たちとハイキング

10.5 電車に乗って海の近くの公園でレクリエーションを行う。

10.28 マリインスキー劇場沿海州別館にてオペラを鑑賞。

11.3 マリインスキー劇場沿海州別館にてバレエ鑑賞。

12.12～12.18 各教科のテスト実施。

12.21 ウラジオストク郊外へ遠足

12.25 クリスマス会、成績表授与式

12.27 朝、寮を離れ帰国

### 履修コースの詳細

- リスニングの授業

→リスニングの授業では主に音声を流しそれを聞き取るという内容が多かった。教科書の穴埋めや短い文での問題に答えたりと、この授業は比較的難易度の高い内容が多かった。

#### ・長文読解の授業

→長文読解の授業では教科書にあるロシア語の長文を指名された人が読み上げ、その後質問に答えるという内容が多かった。長文に接する機会が乏しかったためこの長文読解の授業は比較的難易度の高い内容であったと言える。

#### ・会話の授業

→会話の授業では主に単語やイディオムを覚え、講師と学生が一对一で短い会話を授業内で何度も繰り返すことを行った。

#### ・文章表現の授業

→文章表現の授業では手紙の書き方や住所、間接話法や直接話法などの書き方について学んだ。また写真を見てそこにあるものについて紹介する文を書いた。

#### ・文法の授業

→文法の授業では格変化について学んだ。6つある格変化をまんべんなく行った。講師がはじめに格変化について説明しその後教科書にある問題を解くという流れが多かった。

#### ・極東地理についての授業

→極東地理についての授業では主にロシア極東における地理や自然資源、気候や生息する動物についても学んだ。基本的にはプリントとスライドを見ながら授業を行った。

#### ・美術

→美術ではロシアの伝統的な衣服や工芸品、絵画などをスライドを通して学んだ。この授業では実際に画用紙に絵を書いたり絵具なども使用していた。

#### ・音楽

→音楽の授業では毎回決まった歌を繰り返し歌っていた。学生の中にギターを弾ける学生がいて彼の弾くギターに合わせてみんなで歌を歌っていた。

#### ・ロシア史

→ロシア史の授業では各授業ごとに一つの長文を読みそれに対する質問を解いていきその後スライドで詳細を確認するという流れが主であった。

## 5 留学に対する自己評価、得られたもの

・初めに掲げた目標は語学の上達が目標であったが今回の留学を通して語学に関しては総じて見違えるほど向上したと言える。個人差はあるだろうが留学へ行くと行かないとでは相当な差が付いたであろう。はじめは現地の人と言う言葉は全く聞き取れなかったが最終的には街ゆく人の会話の内容が少し理解できるほどにまで聞く力は向上した。

そして留学中、多くの人々と会話を交わした。その中で私はいくつかの価値観や考え方に会うことができた。最も学んだことと言えば自主的に行動することこそが自分の可能性を広げることだということであった。終始何だかんだこの貴重な留学という経験を自分のものにしようとあらゆる機会に対して自主的に行動を起こしていた。それによって経験したことも重要であるがそれよりもその行動自体が最も大切であると気付くことができた。共に寮生活を過ごした学生や韓国人留学生にはとてもお世話になったしかけがえのない友人になれた。彼らとともにこの得たものは忘れることなく胸に刻みつけようと思う。

## 6 反省・課題

・反省点として挙げられるのはまず初めに予習が不足していたことであろう。単語や聞き取り、長文読解など総じて実力不足ではあったが留学に行く前や現地についてから授業開始までの間の期間の時間を有効活用し予習復習に充てることができればその後の内容はより深くより良いものになったと思う。そして今後の課題としてはこれからも語学の学習を進めることである。ここでの質の良い学習を無駄にすることなくさらにより向上させるためには日々続ける以外にはない。

## 謝辞

・今回の留学において手厚く我々を迎え入れて下さったウラジオストク国立経済サービス大学の講師の皆様、並びに日ごろからお世話になっている新潟国際情報大学の先生方、その他にもお世話になった方々には心から感謝を申し上げます。

## 付録：研修日誌

8.28 成田空港から1時間半の短いフライトを経てウラジオストク国際空港に到着した。時差も1時間だけなので特にみんな疲れた様子にはなかった。空港から大学までは1時間程度の道のりだった。見慣れない風景を目にして徐々に実感がわいてきた。大学につくと荷物をおいて近くにあるスーパーで必要なものを買った。



8.30 この日は午前中に健康診断を行った後に大学の先生とロシア人の日本語が話せる学生と一緒にウラジオストクの市内中心部に行った。

9.2 午後からバスで少し離れたところにあるルースキー島という島に行った。そこではかなりの時間と距離を散歩したためなかなか疲れたがみんなは意外と元気だった。

9.3 いよいよ授業が始まった。どんな授業をするのか全く予想できなかったがとても有意義で楽しい授業でスタートした。

9.7 昼過ぎごろからついにルームメイトの韓国人が寮に到着した。はじめは緊張したが日本語が達者な韓国人がいてくれたおかげでスムーズに意思疎通ができた。

9.23 この日は大学で日本語を勉強している学生たちと一緒に山へハイキングをしに行った。ハイキングといってもほとんど本格的な登山に近いものだった。

9.27 午前中授業をした後に中心地にある美術館へ絵画を見に行った。

10.5 この日は平日だったが授業はなくその代わりに多くの留学生と一緒に郊外の海に面した公園までレクリエーションを行った。様々な国籍の人々がいてとても楽しい雰囲気であった。



11.3 この日はバレエをマリインスキー劇場  
沿海州別館で観た。本格的なバレエを見るの  
は初めてで見ていると引き込まれるような感  
覚があった。

11.15 この日は日本の留学生みんなで音楽  
の時間に練習していた歌を大学のホールで披  
露した。

12.21 この日はウラジオストクの郊外へバスで出かけた。雪がしんしんと降っておりあ  
たりはあっという間に真っ白になった。そこではゴム製のうき輪に乗って斜面を滑走し  
た。

12.25 この日はみんなでクリスマス会を開いた。ロシアの伝統的な遊戯を楽しんだ後、  
成績表の簡単な授与式が行われた。

12.27 いよいよ帰国の日である。朝寮を出る前にお世話になった寮母さんや他の留学生  
に別れを告げた。新潟には夜の7時ごろ到着した。